

テーマ「三位一体～都市と自然と個人の意識～」

今まで私が想像する“よいまちづくり”とは、道路をつくり、河川の整備や地すべりを防ぐこと、その他に景観を意識した住宅地、適度にある公園や娯楽施設があればいいと思っていました。でもその反面、住みよいまちがつくられていくうちに自然とのバランスが崩れて、さまざまな弊害をもたらしています。そして、そうした中での人間の営みに疑問を抱くようになりました。

私の頭の中から離れないこと“人間が都市をつくり、自然を破壊している”このことにずっと悩んでいました。しかし、自然とは何のことを示しているのか自分の中で考えていないことに気がつきました。自然とは、多くの植物で囲まれた野生動物たちの空間だけを指しているように決めつけていたけど、それだけでなく、人間の生きていることも自然だと思うようになりました。よくよく考えれば、都市の中にも公園にあるわずかな緑だけではなく、都市の中にある大気の流れ、太陽の光、水の循環、他の生物の生活などは、都市と自然との関係で生じるしぜんなことだと思います。

このような、自然の流れに対応した都市計画を行えば、野生のものと人間がつくるものが、うまく共有し合うのではないかと思います。それを実現するには、大きな視点から都市を見つめる必要があると考えました。

行う事業は、大規模なものとは限りません。大きければ、それだけ多くの効果を及ぼすことにはなりますが、小規模なものでも一つ一つに方向性を示せば大きな目的を果たすことにはなります。

大きな事業の例として、ボストンのフェンズ・アンド・リバーウェイを挙げます。『フェンズ・アンド・リバーウェイは、水の浄化や土地を洪水から守るために設計された。これらは、下水、小道、馬車道、公園道路、路面電車の路線をも取り込んだ。これらが一体になって、人の動きや水の流れ、そして廃棄物の除去などに適用するよう設計された景観システムをつくり出した。この公園、道路、下水、公共交通の骨組みが成長をつづける都市とその郊外を構成した。』建設三十年後には完全に自然な景観になっていて、ここはまさに、人間の生活と自然の流れとがうまく融合した成功例であるといえます。

しかし、こういった大規模な事業は、日本でするとなると土地が狭くて困難です。日本ができることは、小規模な事業の集まりを統一させることです。どの建物も、どの公園も、どの高速道路も、それ自身の目的だけでなく、大きなシステムの一部としての目的と両方の目的をもって設計するようにします。建物は、内部を利用するだけでなく、周辺に快適な環境をつくりだすようにします。公園は、遊び場という目的の他に、洪水時の水の貯留、木材の生産などにも利用できるようにします。高速道路は、都市における交通ネットワークと、職、住、遊の場所との空間のパターンなど、計画やデザインの可能性をひろげると思います。

このようにしていく時に、重要なことに気がつきました。私は土木を専門として学んでいますが、自分が都市計画に携わって、自分の望む計画ができたとしても、それがその自然環境に適しているものができるとは限りません。つまり、自分の専門だけでは自然の生態系まで、予測ができないという事です。専門分野は必要だけれど、相互の調整がなければ、効果的に資源を管理し災害を防ぐことはできません。いろいろな方向から事業の効果や影響を予測して計画していく必要があります。

今まで、都市を新しく造ることについて述べてきましたが、昔の建物や景色が開発されていないで欲しいという気持ちはあります。その土地の文化、伝統や時代の背景が強く表れているものについては変化させない配慮が必要です。

それから、みんなに住みよいまちにするには、自分からそのような環境を創ることも欠かせない事と思います。緑に囲まれていて、交通も便利なまちに暮らしていても、近所の人々との交流やその地域の行政、行事の参加もしていかなければ、豊かな暮らしはできません。住みよいまちにするには、人任せにせず個人個人の意識が重要だと思います。

これから、お年寄りや障害を持った人でも、だれもが無理なく生活できるような構造物ができていくことと思います。コミュニケーションの場である公園や、広場も多くの人に利用してもらうように工夫されることと思います。技術面ではますます発達して、より便利で効率的なエネルギーを消費することや、環境問題に取り組む企業や大学などが、研究をして発展していくようになると思います。

私が言いたい事は、住みよいまちづくりに関連のある人だけで進めていって行くのではなく、利用するお年寄りから子供までの“よいまちづくり”の意識が必要だということです。ゴミを捨てること一つでも、地域のこと、環境のことを考えるようになってもらいたいです。